

一 般 質 問 通 告 表

	ページ	
① 田 原 実	1 (6月12日予定)
② 滝 川 正 義	3 (")
③ 山 本 剛	4 (")
④ 吉 川 慶 一	6 (")
⑤ 佐 藤 孝	7 (")
⑥ 東 野 恭 行	8 (6月15日予定)
⑦ 笠 原 幸 江	9 (")
⑧ 田 中 立 一	11 (")
⑨ 保 坂 悟	12 (")
⑩ 新 保 峰 孝	15 (")
⑪ 古 川 昇	17 (6月16日予定)
⑫ 吉 岡 静 夫	19 (")

令和2年（6月）第2回市議会定例会

質 問 事 項

① 田 原 実

- 1 糸魚川のセンスアップ、押上新駅を記憶に残る素敵なデザインの駅に。
えちごトキめき鉄道新駅建設と周辺まちづくりについて

【答弁者：市長】

(1) 駅開業は地元押上区の悲願であり、開業にあわせた地域の暮らしや観光活用について、これまで地区住民が行政とも話し合いを重ね、自らつくったまちづくり構想があります。行政はそれを支援し、実現に向かわせることが役割であり、執行権者としての責任があります。その責任を果たすときが今来ました。ただ、その動きが弱く遅いと私は感じます。いかがですか、市長の見解を伺います。

(2) 駅利用者を増やすには、様々な工夫が必要です。これまで議論されたものもあると思いますが、今が新しいアイデアを計画に盛り込む最後のチャンス、タイミングです。鉄道利用者を増やす策に、昭和の時代の感覚は通用しなくなっており、時代のセンスとのギャップに気付かないでいると、新駅開業というインパクトを活かせないこともあります。今日的なプロモーションと、斬新なデザインがなければ利用者は増えないと思います。そこで、

① 駅施設の一部に、地元住民の皆さんが親しみやすいもの、例えば、けんか祭りの装束姿の等身大イラストを取り込む。また、高校生や若者に素敵と感じてもらえるもの、例えば、アニメ「ラブライブ！」のようなタッチの高校生の等身大イラストを取り込む。これをアニメ情報誌やコミック雑誌に取り上げてもらう。

② ヒスイ海岸へ来る観光客の記憶に残るカッコいい外観、例えば、リゾート列車雪月花に通じるデザインの、インスタ映えする建物とする。これを鉄道情報誌や旅の雑誌に取り上げてもらう。

以上、2項目を私から提案し、実現していただきたく要望します。

記憶に残るカッコいい駅になるか、メディアに取り上げられ市のPRに役立つかは市長のセンス次第です。市の対応について伺います。

- 2 新型コロナウイルス対策、地域医療体制の確保について

【答弁者：市長】

(1) 新型コロナウイルス対策における、糸魚川市、新潟県、市内医療機関の役割と連携について伺います。特に脆弱な糸魚川圏域の地域医療体制が新型コロナウイルス対応で崩壊してしまわないよう、糸魚川市が中心となって対策をとるべきだと思います。

米田市長の認識と、今これからの早急な対応について伺います。

質 問 事 項

- (2) 新型コロナウイルス第2波、第3波に備えての感染拡大予防策、検査検診体制強化策、糸魚川圏域での病床確保策、重症化予防策について伺います。
- (3) 持病を抱え、重症化を心配する市民への対応について伺います。
- (4) 医師、看護師、医療スタッフの感染予防強化と安全確保策について伺います。
- (5) 全国的に医療機関の経営が厳しいとのことですが、国の補正予算の医療整備交付金拡充のタイミングで糸魚川圏域の医療体制向上に取り組みないと、コロナ収束後も医師、看護師不足、診療科縮小が更に進むことを私は心配します。市の対応について伺います。

3 復興まちづくり計画、糸魚川の文化を感じる雁木のまちなみについて

【答弁者：市長、教育長】

- (1) 駅北大火から間もなく3年半、復興計画に盛り込まれた工事だけは順調に発注されていますが、本町通りでは常に工事をしているものの人通りは少なく、市が掲げるにぎわいのあるまちの実現が危ぶまれています。そういった中、復興計画にある糸魚川らしいまちなみ形成のために雁木をつくる被災者住民がおられます。雁木はアーケードと違い私有地を提供してつくり、つくった後も維持費が掛かります。それでも皆さんが雁木をつくるのはなぜかといえば、雁木をおもてなしの空間と捉え、おもてなしの精神を受け継いでいきたいという思いからだと思われ、本町通りの方から伺いました。私はこのお話を伺って、雁木は糸魚川市民のシビックプライドの象徴であると気付きました。シビックプライドは、都市に対する市民の誇りを指す地方創生のキーワードですが、郷土愛といった単に地域への愛着を示すものとは違い、権利と義務を持って活動する主体としての市民性を意味します。雁木をおもてなしの空間と捉え再建する市民について、市長の見解を伺います。
- (2) 本町通りの雁木と町屋のまちなみは、加賀街道や商店街として栄えてきた歴史の中で醸成された地域資源です。糸魚川の住民にとっては当たり前のものですが、大都市や他の都市との差をつくる糸魚川の個性でもあります。今の本町通りは以前よりも商業集積地としてのニーズは減少しましたが、大火で被災した老舗酒蔵や老舗かっぼうが再建し、にぎわいの拠点为建设され、雁木のまちなみが再生されつつあります。本町通りの皆さんが私財を投じて雁木のまちなみをつくるのは、市が計画に掲げるにぎわいのあるまちになり、エリアとしての価値が再び高まっていくことを理解し、期待したからこそだと私は思います。目標はエリアの復興です。本町通りの復興、本町ルネサンスについて、市長の見解を伺います。
- (3) 仕掛絵本、児童文学、相馬御風などの糸魚川には貴重な素材、文化資源がありながら、こどもたちのために役立てられていないのではないのでしょうか。それでは宝の持ち腐れです。雁木を活かし、まちの文化を感じてもらえる取組として、

質 問 事 項

町屋やお店に特色のある本を置いて、まち巡りをしてもらう取組があると聞いています。市の協力支援について、教育長の見解を伺います。

②滝川正義

1 新型コロナウイルス対策に関して

【答弁者：市長、教育長】

- (1) このコロナ禍が及ぼした経済面の影響をどのように分析しているか伺う。
- (2) この度の危機管理対応で見つかった課題、教訓といったものがあるか伺う。
- (3) この間の国民健康保険の医療費と件数は、対前年同月比でどのような状態か伺う。
- (4) 医療、介護、福祉の現場で業務に対応している職員の不安解消のために、PCR検査を優先的に受けることができないか伺う。
- (5) この間、外出を控えた高齢者の健康状態が心配されるが、何らかの対応を考えているのか伺う。
- (6) この度のコロナ禍はデジタル社会が初めて経験する感染症だが、市のホームページから最新の情報を得ようにも、IT機器やITリテラシーの有無によって情報格差が生じたことは否めない。この度の危機対応を機に、市民のITリテラシーを高める必要があると思うがいかがか。
- (7) 休校中の対応としてオンライン学習が一気に広がった感があるが、このオンライン学習についてどのように考えているのか伺う。
- (8) 国、県から災害時の住民避難と感染症の拡大防止の両立を求められているが、どのように両立する考えなのか伺う。

2 認知症施策に関して

【答弁者：市長】

- (1) 高齢者の健診受診率はどのような状況にあるか伺う。
- (2) 健診の中で認知症の診断を行っているのか伺う。
- (3) 認知症の人が起こした事故で、本人や家族に賠償責任が発生した場合の救済については、どのように考えているか伺う。
- (4) 認知症の人が起こした事故に市民が巻き込まれて被害に遭った場合、被害者への救済については、どのように考えているか伺う。
- (5) 後期高齢者のフレイル健診は始めているのか伺う。
- (6) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施が求められているが、現状はどの

質 問 事 項

ような状態か伺う。

3 再生可能エネルギーに関して

【答弁者：市長】

(1) 「新エネルギービジョン」について

国の再生可能エネルギーの固定価格買取制度見直しの背景には、災害時に活用するというレジリエンス強化と、電気の地産地消を推進するという2つのねらいがある。このような再生可能エネルギーを巡る枠組みの大きな見直しは、現在策定中の「新エネルギービジョン」に影響を及ぼすのではないか伺う。

(2) 小水力発電等について

「新エネルギービジョン」では、化石資源より将来性があり、市内に他地域より豊富にある小水力発電とバイオマス発電を積極的に導入する考えがあるのか伺う。

③ 山 本 剛

1 新型コロナウイルスによる小中学校への影響について

【答弁者：教育長】

新型コロナウイルスにより、昨年度末の3月、そして今年度の4月から5月に小中学校が休校となりました。県下では87時間の遅れとの報道があり、他市等では夏休みの短縮の報道もあります。

そこで現段階における糸魚川市内での影響や今後の課題等について、以下質問します。

(1) 学業の遅れについて、現在までの状況はいかがか伺います。

(2) 卒業式、入学式は縮小、運動会等が中止となりました。修学旅行等の行事について、今後どのように考えているか伺います。

(3) 休校や行事が行われなかったことによる、児童生徒の生活態度等に変化はなかったか伺います。

また、ほかにも児童生徒の精神的な状況や影響について伺います。

(4) 今後、第2波を含め感染症が起こった場合に対して、設備面を含め様々な準備が必要と考えます。教育委員会として対策をどのように考えているか伺います。

質 問 事 項

2 新型コロナウイルスによる避難所の運営について

【答弁者：市長】

これから梅雨のシーズンとなります。また近年、台風の大型化により各所で被害が多発しています。糸魚川市でも昨年10月に能生、早川地区に避難勧告が出されました。今月計画されていた総合防災訓練が中止となりました。3密を避けるための中止と理解しています。

5月29日の安心メールで避難行動についての発信がありました。県では各市町村の担当者を集めた勉強会の報道もありました。そこで糸魚川市として、この状況下での避難所の運営について、以下質問します。

- (1) 避難所の3密を避けるための方策をどのように考えているか伺います。
- (2) 安心メールで自宅避難についての発信がありました。また、安全な親戚、知人宅への避難についても発信されていました。

安心メール以外での、市民に周知してもらうための方法について、どのように考えているか伺います。

3 新型コロナウイルス終息後における、都会から地方への移住について

【答弁者：市長】

新型コロナウイルスにより、都会では3人に1人は都会から地方への移住を考えているとの報道があります。これにより仕事の仕方が大きく変化すると言われてい

ます。そこで、新型コロナウイルス終息を見据えて糸魚川市に移住してもらうため、市として今まで以上の対策が必要と考えます。以下質問します。

- (1) 糸魚川市の強みは、恵まれた自然や地域コミュニティなどのほか、新幹線では東京へ2時間強で行くことができます。

しかし、これだけでこの糸魚川を選んでいただけるのでしょうか。移住に向けて新たなインフラ等が必要ではと考えています。市として方策を考えているのか伺います。

- (2) UIターンを推進するためには、情報発信が重要と思います。何か考えがあるのか伺います。

質 問 事 項

④ 吉 川 慶 一

1 津波ハザードマップについて

【答弁者：市長】

近年、全国各地で多くの自然災害が発生しております。

9年前の東日本大震災・津波を始め、西日本の大洪水・森林災害、今年の台風19号による広範囲に及ぶ強風・洪水災害など、その悲惨な状況は、今もって記憶に生々しく残っております。

想定外の事態といえはその通りかもしれませんが、人災的な側面が多分にあることも否定できないと思います。

これからは、想定外のことを想定した上で、万全の備えをしなければならない時期になってきたと考えられます。

行政・市民互いに手を携えて取り組んでいくことが肝要であり、そのためには迅速かつ正確な情報伝達が必要不可欠です。

折よくも、昨年、改定版「津波ハザードマップ」が市民に配布されましたので、この内容及び関連した事項も含めて伺います。

- (1) 糸魚川市の「津波ハザードマップ」に掲載されている「断層（上越・糸魚川沖）」の位置は、新潟県のハザードマップの図面に反映されていますか。
- (2) 内陸部の地下深くまで潜入している重要な「断層面」については、何らの記述もありませんが、なぜでしょうか。
- (3) 到達時間を5分以内としていますますが、市民には「5分」という数字のみが強く印象付けられ、この「以内」に対する意識が薄らぎがちになるように思われますがいかがでしょうか。直下型の場合、地震即津波が襲ってきますが、予想されるかどうか伺います。
- (4) 「上越・糸魚川活断層」の活動によって地震、津波が発生する可能性が多分に予想されますが、いかがでしょうか。市内全般における、過去の津波歴に関する調査記録があるか伺います。

質 問 事 項

⑤ 佐藤 孝

1 新型コロナ対策について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 特別定額給付金について

- ① 給付対象者数、申請書送付数、手続完了数はどうなっているか伺う。
- ② 生活保護世帯、外国人技能実習生等の申請状況について伺う。
- ③ オンライン申請の状況については、どうなっているか伺う。
- ④ 高齢者世帯等、申請弱者の手続書類不備の状況について伺う。
- ⑤ 未申請者に対して、申請を呼び掛ける必要があると思うがいかがか。

(2) 新型コロナ緊急事態宣言による市内への影響について

- ① 売上減少による廃業等の状況はどうなっているか伺う。
- ② 飲食店や宿泊施設の業績不振による失業者の増加、生活保護世帯の増加等は表れていないか伺う。
- ③ 医療機関の受診者数の減少や、医療機関の経営状態の悪化が全国的な問題となっているが、糸魚川市内ではどうか伺う。
- ④ 全国的に、派遣切りや非正規切りが報道されている。糸魚川市では、会計年度任用職員が多く、小中学校も休校になったが、非常勤職員のこの間の扱いはいかがであったか伺う。

(3) 自粛解除後、新しい生活様式について

自粛が解除されて、飲食店や宿泊施設が復活に動き出した。新しい生活様式では、人との間隔はできるだけ2m（最低1m）空けるようにとされているが、以下伺う。

- ① 人との間隔は最低1mとされているが、聴覚の衰えた高齢者の多いこの地区では、意思の疎通がますます悪くなり、認知症の増加にもつながりかねない。補聴器の必要性が増すと思われるが、いかがか。
- ② 学校では授業が再開されているが、この際、全国に先駆けて少人数学級実現を目指し、子育てのまちをアピールしたらどうかと思うがいかがか。
- ③ 市内飲食店や宿泊施設の復活を目指した事業が始まるが、市の事業、県の事業、国の事業があり、事業者には分かりやすい説明が必要と考えるがいかがか。

質 問 事 項

⑥ 東 野 恭 行

1 コロナ禍における糸魚川市内経済への影響について

【答弁者：市長】

2020年4月、コロナ禍における緊急事態宣言が発令され、日本国内は今までに経験したことの無い経済危機に見舞われ、現在もその状況は続いております。

糸魚川市においても例外ではなく、飲食店を始めとした店舗、企業が新型コロナウイルス感染症の打撃を受けております。市内外のイベント中止や、インターハイ、甲子園大会などの中止も相次ぎ、それらに伴い経済活動は落ち込み、多くの落胆の声を聞いております。

今後は「ウィズ・コロナ時代」に向けた取組を進めていくことで、新しい生活様式を確立していかなければなりません。元どおりの生活に戻るといよりもニューノーマルな生活へ移行していくと考えます。

糸魚川市においても、オンライン化とデジタル化は避けて通れず、社会全体で進めなければならないと考えますし、それらに取り残される人がいないように包摂的に対応し、質の高い成長を遂げられるよう取り組んでいただきたいと思います。

- (1) 2020年度における現時点での「市内総生産の落込み予測」について伺います。
- (2) 糸魚川市における失業や廃業の実態と、防止に向けた取組について伺います。
- (3) 経済活動が再開される中、いつ失業するか分からないという不安から消費の落込みは続くと考えられるが、「糸魚川創成塾2020」開催における懸念材料はないか伺います。
- (4) 政府は2020年5月27日、第2次補正予算案を閣議決定し、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の拡充で予算計上しているが、糸魚川市として第2波の備えとして考えられる施策を伺います。

2 コロナ禍における生活様式の変化とその対応について

【答弁者：市長、教育長】

- (1) 糸魚川市における新型コロナウイルス感染症に便乗した悪質商法・送り付け詐欺、保健所を名乗る悪質な電話等の被害状況を伺います。
- (2) 家庭学習環境の整備について、リモート環境におけるWi-Fiの設備は不可欠と考えるが、設備投資に関する支援策の考えを伺います。

質 問 事 項

3 リモート社会を見据えた糸魚川市の取組について

【答弁者：市長、教育長】

- (1) 糸魚川市を含む31事業所による「オンライン版糸魚川就活フェア」が開催されたが、オンライン化による利点と、次回開催に向けた改善点・反省点を伺います。
- (2) 今後、新型コロナウイルス感染拡大の最悪な状況を踏まえ、リモート機能を駆使した議会運営における行政・議会双方の準備と「法令整備」が必要であると考えますが、これら環境整備による行政側の考えを伺います。
- (3) 糸魚川市のホームページを窓口として、市内小・中・高校生の部活動代替大会が観戦できる「無観客ライブ配信」の支援策を検討できるか伺います。
- (4) 東京から新幹線で2時間。海も山も近く、食べ物もおいしい糸魚川市への「サテライトオフィスの誘致」「コワーキングスペース開設」等の検討はあるか考えを伺います。

4 Go To Travelキャンペーンに向けた市の取組について

【答弁者：市長】

- (1) 糸魚川市において、コロナ禍の収束を見据え、地域の多様な資源を活用した着地型観光の提案と発信は、どのような工夫をされ、行うのか伺います。
- (2) マイコミ平に向かう林道「福来口線」の修復整備について、進捗状況と開通の見通しについて伺います。
- (3) ジオパルに設置される予定の「トワイライトエクスプレス」にて、経済活動を実施する考えはあるか伺います。
- (4) 大糸線において「雪月花」を運行する観光商品の考えはあるか伺います。
- (5) コロナ禍の収束を見据え、グランfond糸魚川開催の支援について、市はどのように考えるか伺います。

⑦ 笠原幸江

1 新型コロナウイルス感染症支援策と経済への影響と今後について

【答弁者：市長】

緊急事態宣言が解除され、国や県の方針を踏まえ解除されたとはいえ、全ての市民にとって元の暮らしに戻るといってわけではなく、「新しい生活様式」が求められました。当市では5月に「新型コロナウイルスに負けないために」という、正しく知って自分

質 問 事 項

の身を守る方法が漫画を取り入れ広報されています。大変分かりやすく、良いことであると感心しています。

国の支援策、県での支援策を前提に当市の支援策が打ち出されてきています。以下の項目について伺います。

(1) 様々な支援策が取り組まれています。以下について市民からの苦情や問題等は出ていますか伺います。

- ① 特別定額給付金
- ② 緊急事業継続給付金
- ③ 雇用調整助成金申請費補助金
- ④ 感染拡大防止対策補助金と休業協力金
- ⑤ 全戸配布のマスク配布

(2) 今後の第2波、第3波に備えた対策の強化について

新型コロナウイルス感染症が完全に終息していません。PCR検査等の検査機能強化や相談窓口の強化等、万全な準備をされていますか伺います。

(3) 公共料金の減免等や財源確保のための当市の今後の対応について

経済状況の先行きが見えない、大変厳しい中での令和2年度のスタートとなりました。新型コロナウイルスの影響で深刻な財源不足となることは必至です。今後はグローバル社会からローカル社会への変換を余儀なくされると予測されます。市民生活に支障のないよう事業の見直しに着手する必要があると考えます。

- ① 財政調整基金の現在の残高と今後の使途について伺います。
- ② 公共料金の延納や減免等の有無について伺います。
- ③ 先行き不透明な経済の悪化に伴い、当市として積極的な企業誘致を進める必要があると思いますが、いかがか伺います。

2 地域おこし協力隊・集落支援員について

【答弁者：市長】

平成21年3月31日制定の地域おこし協力隊推進要綱によると、「人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域力の維持・強化を図るためには、担い手となる人材の確保が特に重要な課題となっている。また、地域外の人材を積極的に誘致し、定住・定着を図ることは、地域力の維持強化にも資する取組であり、有効な方策と考えられる」と要綱にうたわれております。当市における現状と課題と今後について以下の項目を伺います。

(1) 地域おこし協力隊について

- ① 地域おこし協力隊は現在3名ですが、その方たちの在籍年数は何年で、配置先はどこの地域となっていますか伺います。
- ② 地域おこし協力隊の活動の主な内容はどのように周知し、委嘱されていますか

質 問 事 項

か伺います。

- ③ 在籍年数終了後の定住・移住を希望された協力隊員は何名で、生活支援や就職支援の実績件数はどうか伺います。
- ④ 定住のための財政支援は、どのようになっていますか伺います。
- ⑤ 今後、地域おこし協力隊を継続する考えはありますか伺います。

(2) 集落支援員について

集落支援員の制度が平成20年度に創設されて13年目に入りました。当市では、10名の集落支援員が活動され努力されています。その役割について伺います。

- ① 地域をサポートすることによって、地域住民が自主的に動き出した事例があれば紹介していただきたい。
- ② 支援員が提案する財源について伺います。

⑧ 田 中 立 一

1 新型コロナウイルスによる影響と対応について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 市内経済への影響と対策について

- ① 業績悪化などによる市内事業所での雇用環境への影響をどのように把握し、支援対策を考えているか伺う。
- ② 業績悪化している市内事業所が負担する家賃・リース料など、固定費への助成についての考えを伺う。
- ③ 一次産業への影響をどのように把握し、支援対策を考えているか伺う。
- ④ 就活状況への影響をどのように把握しているか。

(2) 練習や舞台発表、公演ができないなど活動が制限され、地域の文化力低下が懸念されるが、文化への影響をどのように把握し、今後の対応を図るか考えを伺う。

(3) テレワークの普及と推進への支援について

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から「新しい生活様式」を推奨し、働き方としては、テレワークやローテーションによる勤務、オンラインでの会議などへの変容が求められている。

また、BCP対策の有効な手段としてもテレワークの活用は重要性を持つことから、次の点について伺う。

- ① 緊急事態宣言中の市内事業所のテレワークの取組状況と今後の推進への支援について
- ② 新型コロナウイルス感染拡大を機に、東京など都会から地方へ働く場を移す考えを持つ企業や個人についての把握と、積極的な受入れを図る考えについて

質 問 事 項

(4) アルバイト等の社会経済活動が制限された、出身大学生等への学費・生活費の一部を支援する考えについて伺う。

2 種苗法の改正について

【答弁者：市長】

今国会に提出された種苗法改正案は結局「審議見送り」となったが、法案の内容は、農家に「自家増殖」の禁止を迫るなど、生産者・消費者双方の立場から懸念される声が出されるなど話題にもなり、今後も注視していかなければならないと思うが、市では種苗法の改正案による生産者等、関係者への影響をどのように考えているかを伺う。

3 動物愛護の取組への支援について

【答弁者：市長】

飼い主のいない猫によるふんや尿などの被害、近隣トラブルに有効な対策となる活動の一つとしてTNR活動がある。

TはT r a p、野良猫を捕まえ（捕獲）、NはN e u t e r、不妊手術をする、RはR e t u r n、元の場所に戻す、ことだが、先月の広報でも大きく紹介されたことから周知も進み、この活動の重要性を認識された方も多くおられたかと思うが、市としても地域のトラブルや環境美化、衛生面など多角的な観点からTNR活動等への支援についての考えを伺う。

⑨ 保 坂 悟

1 新型コロナウイルス緊急支援の現状と課題について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 暮らしを守る支援策について

- ① 特別定額給付金について、高齢者や障がい者等の各種申請手続の支援は行われているか。また、申請や給付で問題があるか。
- ② 生活困窮者への支援について、現状から何が必要と考えているか。
- ③ フードバンクの創設や運営支援を行う考えはあるか。
- ④ ひとり親家庭への支援について、現状から何が必要と考えているか。
- ⑤ 学生等への支援について、現状から何が必要と考えているか。
- ⑥ 子どもたちの学習環境整備をどのように考えているか。

質 問 事 項

(2) 事業継続と雇用を守るための支援について

- ① 国、県、市が行う各種支援事業で、申請や給付などで問題点はあるか。
- ② 事業継続のための家賃補助などの拡充は考えているか。
- ③ 宿泊業や飲食店等への支援拡充や振興策は考えているか。
- ④ 農林漁業者に対する支援強化は考えているか。
- ⑤ 公共交通や物流等を支える労働者支援の強化は考えているか。
- ⑥ 妊婦の休業補償を手厚くする支援は考えているか。

2 新型コロナウイルス感染防止対策について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 第2波に備えた対策強化と「新しい生活様式」の推進について

- ① 行政、医療機関、福祉施設、学校等で改善する点は何か。
- ② 公共交通機関の安全対策で改善する点は何か。
- ③ 飲食店、宿泊施設、スーパー等との協力体制で改善する点は何か。

(2) 第2波に備えた避難所における感染防止対策について

- ① 医療用マスク、防護服、個包装マスク、フェイスシールド、消毒液、体温計、段ボール間仕切りやベッド、パーティションの備蓄強化をどのように考えているか。
- ② 除菌剤や消毒液について、正しい情報の提供は行っているか。

(3) 感染者対策の拡充について

- ① 医療機器、各種検査キット、簡易検査施設の拡充は行っているか。
- ② 感染者の受入協力事業者との事前契約は行われているか。
- ③ 感染者の人権保護のための専門家による支援策はあるか。

(4) 感染症に強い安心安全なまちづくりの検討について

- ① 感染症と他の災害が重なったときの対応マニュアルはできているか。
- ② 都市災害に備えたサテライトオフィスの誘致政策は考えているか。
- ③ 情報共有のためスマートフォン等の市民への普及計画はあるか。

3 糸魚川市のまちづくり改革について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 行政と地域のスマートシティ化について

- ① I o TやA Iの活用を加速させる市職員の人材拡充計画はあるか。
- ② 今後様々なサービスを受けるために、スマートフォンやタブレット端末が必要となる。市民に端末を普及させる考えはあるか。
- ③ 移住定住や観光振興を推進する上で、市内公共施設と観光施設にはフリーW i - F iを整備する必要がある。その計画はあるか。

質 問 事 項

- ④ 買い物や通院・通学等の生活面と観光振興のための交通手段について、抜本的な改革を行う具体的な取組はあるか。
- (2) 子育てや子ども教育に魅力のあるまちづくりについて
- ① 「子どもたちの興味と集中力が育つ糸魚川市」を目指して、家庭教育の相談窓口の設置と子育てアドバイザーの配置をする考えはあるか。
- ② 受験者数から見る市内3高校の魅力づくりの戦略は考えているか。
- ③ 医師以外の分野で就学資金貸与制度を新設する考えはあるか。
- (3) 30年持続可能なまちへの戦略について
- ① 新型コロナウイルスによる新しい生活様式を生かす戦略はあるか。
- ② 糸魚川市の地の利を生かした定住促進戦略はあるか。

4 動物愛護活動について

【答弁者：市長】

- (1) 猫等の飼育頭数の把握の事業化について
- 一人世帯や高齢者のみの世帯では、飼い主が病気やけがで急に入院する場合、ペットの面倒を見ることができないことがある。また、多頭飼育防止のためにも把握は必要である。市として事業化の考えはあるか。
- (2) 動物愛護活動の普及支援の事業化について
- 保護された動物の譲渡会の支援、野良猫等の去勢手術支援、避難訓練におけるペット同行避難の周知支援などを事業化する考えはあるか。
- (3) ペットと安心して暮らせるまちづくりについて
- 動物愛護への意識向上を目的とした「人と動物との調和のとれた共生に関する条例」の制定を進め、人と動物に優しい糸魚川市として、ペットとの暮らしを推進する考えはあるか。
- (4) ペット同伴で観光が楽しめるまちづくりについて
- 糸魚川市の自然環境を生かし、ペットに特化した受入サービスや施設整備を行い、その飼い主さんも共に楽しめる工夫を凝らした商品開発を観光協会や宿泊施設等と研究・検討を行う考えはあるか。

5 地域の安全対策について

【答弁者：市長】

- (1) 猟友会の組織強化について
- ① 活動支援と人材育成について、支援を強化する考えはあるか。
- ② 猟友会の存続と管理運営で現状の課題は何か。
- ③ ジビエ料理の普及と猟友会の連携協力体制は確立しているか。
- ④ 糸魚川産ジビエの販路拡大や地産地消について支援はあるか。

質 問 事 項

(2) 鳥獣被害対策について

- ① 農業者からどのような支援が要求されているか。
- ② 家庭菜園等で市民からどのような支援が要求されているか。
- ③ 被害者の皆さんで被害者協力会のような組織をつくり、広域的・長期的な対策を専門家とともに取り組む必要があると思うが、課題としてどのようなことがあるか。

(3) 動物と人間の生活共存化の構想について

- ① 自然観光の開発や里山づくりの長期計画の策定を考えているか。
- ② 野生動物の餌となる樹木の植林運動を展開する考えはあるか。

(4) 用水路等の転落防止柵について

ガードパイプなど腐食の点検や修繕は、どのように行っているか。

⑩ 新保峰孝

1 新型コロナウイルス対策と地域医療の充実について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 当市の新型コロナウイルス対策を更に充実させる必要があるのではないか。

- ① 緊急事業継続給付金は対前年50%以上減少、上限20万円、申請期限7月31日となっている。減少率50%未満の枠も設定し給付する等、対象を拡大すべきではないか。
- ② 新型コロナウイルスによる影響が大きい業種を対象に、ガス・水道料金の減額や固定資産税の軽減を検討すべきではないか。
- ③ 特別定額給付金の対象者で給付を希望される方が全員受け取れるよう、手を打つべきではないか。

(2) 糸魚川市は地理的条件も考慮し、第2波対策をどのように捉え、対応する考えか。

- ① 医師会と連携したPCRセンターの設置を検討すべきではないか。
- ② 軽症者を隔離する宿泊施設の確保が必要ではないか。また、重症者が入れる病室を糸魚川総合病院の協力を得て、市が助成し設置できないか。
- ③ 糸魚川総合病院へのPCR検査機器の導入と検査体制の構築ができないか。
- ④ 医療、福祉施設関係職員のPCR検査を実施すべきではないか。
- ⑤ 救急医療の体制と装備を強化すべきではないか。体制と装備等については、新型コロナウイルス発生以降強化されたか。
- ⑥ 新型コロナウイルスの感染症対策として身体的距離の確保が言われているが、小中学校ではどのような長期的対応策を考えているか。

質 問 事 項

(3) 今後の地域医療体制の維持、充実をどのように強化していく考えか。

- ① 3次救急までいかななくても、糸魚川地域で一定程度完結できる2.5次医療圏域とでもいうべき体制を構築することが市民の命を守ることに繋がると思うが、どのように考えているか。新型コロナウイルス対応で、今後、医療の確保は大丈夫か。
- ② 新型コロナウイルス対応での医療機関への国の財政支援を求めること、国の医療費削減政策をやめさせ医療の充実を図ること、新潟大学医学部の定員拡大等、地方の医師不足の一層の改善を国に求めていくことが必要ではないかと思うがどうか。

2 介護施策の充実について

【答弁者：市長】

- (1) 特別養護老人ホーム入所希望者の現状はどうなっているか。
- (2) 今後の介護施設整備計画はどうか。
- (3) 施設介護・在宅介護の需要見通しと対応はどうか。
- (4) 団塊の世代が後期高齢者となるのに備え、特別養護老人ホームの増設が必要ではないか。
- (5) 24時間在宅介護を推進するため、市独自に上乘せ支援を検討すべきではないか。
- (6) デイサービスの「夢のみずうみ村」のような運動機能向上に取り組み、成果を上げている事業所に、上乘せ加算を取り入れたらどうか。

3 駅北復興まちづくりについて

【答弁者：市長】

- (1) 駅北大火から3年が過ぎ、ほぼ復旧も終わってまちづくりに関連した取組が行われていると思うが、今後の予定はどのようになっているか。
- (2) 現状は大火前よりも事業所が少なくなっているが、どのように計画を推進していく考えか。
- (3) 今後の駅北地域のまちづくりに、糸魚川の文化はどのように位置づけられているか。

質 問 事 項

⑪ 古 川 昇

1 新型コロナウイルス感染症対策について

【答弁者：市長】

今年1月、国内で新型コロナウイルス感染が確認されて4か月が経過、感染者が蔓延する中、4月7日に「緊急事態宣言」が7都府県に、そして全国へと拡大されました。感染拡大でイベント中止や外出自粛が広がり、経済活動の停滞が続き、過去に経験したことがない経済危機と言われるまで落ち込んでいます。緊急経済対策で相次ぐ補正予算が編成されていますが、営業自粛要請に応じて落ち込んだ事業の再建や生活困窮者が立ち直るには、補償の迅速性と実効性が何よりも優先して求められています。糸魚川市にあっても経済や消費状況は落ち込んでいます。感染リスクの中、感染弱者と言われる高齢者や介護・福祉事業・健康管理分野で働く方々はこの間、過去の感染症とは違う強力な感染力を持つ新型コロナウイルスにどんな対策をしてきたのか、何が問題点として浮かんできたのか。「緊急事態宣言」は解除されましたが、今後第2波の感染予測に備えるためにも、現時点における実態把握が重要と考えます。以下伺います。

- (1) 新型コロナウイルス感染症の発生が明らかとなった以後、介護事業所や福祉事業所などでの感染予防対策の実態はどうであったか調査し、把握はできているか伺います。
- (2) 各事業所との間で、どのように連携して感染予防対策を図ってきたのか伺います。
- (3) 新型コロナ禍の状況で、進めてきた予防対策は、何が、どんなことが問題であったのか、課題として整理はされているか伺います。
- (4) 今回の新型コロナウイルス対応で、急激な衛生用品資材確保のために多大な出費が発生した事業所や利用者の減少で減収となっている事業所が多数あります。事業の持続や経営安定に向けて、市独自の支援助成ができないか伺います。
- (5) 新しい生活様式の実践例も示されましたが、新型コロナウイルスと向き合っていく今後の対応について伺います。

2 介護保険事業について

【答弁者：市長】

平成28年より介護予防・日常生活支援総合事業が開始されて、高齢者の自立に向けたサービス提供と意義の啓発が図られてきました。自立した生活と社会参加の促進、地域の相互の支え合いの中で、自らの能力に応じた日常生活が送られるよう進めています。総合事業サービスが提供される中で、事業対象者の自立度がどう改善されてき

質 問 事 項

たのか、事業評価を明らかにすることで、自立支援重度化防止につながっていく介護予防事業の取組は重要です。

第7期介護保険事業計画が最終年となり、次期事業計画の一般高齢者と要介護認定者に対する調査が開始されました。第7期計画の重点課題に対する進捗状況や地域包括ケアシステムの取組評価は重要です。

社会保障審議会介護部会が示した介護保険制度の概要では今後、介護サービス需要の増加・多様化、少子化による担い手の減少が進む状況で、地域包括ケアシステムを更に高齢者支援の中核的基盤として、地域共生社会実現のために見直しを図るとしています。より一層の高齢者相互の支え合いと軽度要介護者の給付削減が求められています。以下伺います。

- (1) 総合事業対象者への自立支援・重度化防止の事業効果は、具体的に表れているか伺います。
- (2) 令和元年度の介護給付費総額と地域支援事業費の支出額は、どのように推移したのか伺います。
- (3) 糸魚川市の介護施設の介護人材確保は図られていますか、伺います。
- (4) 昨年12月、介護保険部会で示された介護保険制度の見直し案件の内容について、行政はどのように受け止められたのか、考えを伺います。

3 押上新駅について

【答弁者：市長】

5月に安全祈願祭が行われ、待望の新駅設置の工事が始まりました。新駅設置工事の進捗に合わせて、地域活性化に向けて住民の期待感は一層高まってきています。工事開始に伴い周辺住民の要望や配慮への意見、また工事期間中や完成後の環境整備に向けて多くの意見が寄せられている状況にありますので、その対策について伺います。

- (1) 工事期間中の騒音、振動等による周辺住民や家屋・建物に及ぼす影響の予防対策について伺います。
- (2) 新駅をまちづくりと地域活性化の中心として位置づけ、鉄道利用促進と利便性向上、交流人口拡大に向けて進めています。周辺の道路や歩道等の環境整備について伺います。
- (3) 通学、通勤の時間帯で踏切前後の混雑が予想されますが、駐停車車両の道路規制と、それを解消するための対策について伺います。

質 問 事 項

⑫ 吉 岡 静 夫

- 1 「議会・議員」と「行政・市長」のあり方
- 2 対「高齢者」・対「高齢化社会」のあり方
- 3 旧姫川病院など、市内各遊休施設などの緊急時における利活用のあり方

【答弁者：市長】

今回は、大きく次の3点に絞り込んで取り上げ、お伺いさせていただきます。

その1は、2020（令和2）年5月3日付け「朝日新聞のアンケート調査」からのもの。その2は、5月13日付け「新潟日報の報道」によるもの。その3は、新型コロナウイルスの動き以降、寄せられているご意見。

それぞれ時期も時期。市長、改めて考えるところをお聞かせいただきたい。よろしくお願いいたします。

- 1 「議会・議員」と「行政・市長」のあり方

2020（令和2）年5月3日付け「朝日新聞のアンケート調査」ではこうなっています。

「国会の議論にどの程度関心がありますか」

大いに関心がある	10
ある程度関心がある	44
あまり関心はない	35
まったく関心はない	9

「国会が法律や政策について議論を尽くす役割を果たしていると思いますか。果たしていないと思いますか。」

果たしている	17
果たしていない	77

「国会が政府をチェックする役割を果たしていると思いますか。果たしていないと思いますか。」

果たしている	18
果たしていない	76

そこでお伺いします。市長も十二分にご存じのごとく、私、「議員・議会の市長・行政チェック機能」については、ことあるごとにその必要度・重要さを強調し続けております。

しつこいようですが、この機に改めてお聞きをさせていただきます。このアンケート調査結果、どう受け止めておられるかをお聞かせください。

質 問 事 項

2 対「高齢者」・対「高齢化社会」のあり方

2020（令和2）年5月13日付け「新潟日報」では「県19年度高齢者基礎調査」の内容を報じています。概要はこうです。

「一人生の最期を迎えたい場所について、『自宅』との回答が51.4%で最多だった。在宅介護を希望する人も半数以上を占め、そのためには急病時に駆け付けてくれる医療・看護体制の整備を求める声が目立った。

人生の最期に関する質問は今回初めて設けた。最期を迎えたい場所は自宅以外で『病院』が15.5%、『介護施設』が4.4%だった。

最期の過ごし方を誰かに相談したことがあるかについて『全く相談したことはない』が68.9%に上った。

介護が必要になった場合について、『家族に依存せずに生活できるような介護サービスがあれば自宅で介護を受けたい』など何らかの形で在宅介護を望む人が合わせて53.2%を占めた。

自宅や地域で暮らし続けるために必要なことは、『具合が悪くなったときに駆け付けてくれる医療・看護体制が整っていること』が最多の62.0%。『ショートステイやデイサービスなどの介護サービスが必要なときに使えること』（57.5%）が続き、医療・介護サービスのさらなる充実が求められている実情が明らかになった。

悩みごとについては、『自分・家族の健康のこと』が50.5%。『寝たきりや体が不自由になり、介護が必要な状態になること』（36.1%）、『生活費など経済的なこと』（26.3%）が続いた。心の不調についても4割強が感じたことがあると答えた。

一」
そこでお伺いします。

私自身、この5月21日、84歳を迎えさせていただきました。年寄り面をするわけではありません。むしろそれなりの弱さ、じれったさを思い知る、思い知らされることのなんと多いことか。そんな思いを至る所で訴え続けさせていただいております。

その一つに、「高齢者・高齢化社会対応」は「行政の支援ではない。行政の責務と位置づけなければならない」があります。一方で「行政の根幹にこの問題、据え付けよう」があります。

改めて、しつこいようですが、この思い・訴え、市長、どう受け止められましようか。お聞かせいただきたい。

なお、あわせて当調査の数字など、当市の場合はどうのようになっていましようか。

3 旧姫川病院など、市内各遊休施設などの緊急時における利活用のあり方

今次の「コロナ」に係る対応について、いろいろな方々から様々なご意見を頂きました。その中から絞り込んだ形で取り上げさせていただきます。

「—インフルエンザだと思った患者が実は新型コロナ肺炎に感染していた場合、糸魚川総合病院に行ってしまうと、院内感染で医師・看護師などが出勤停止。そうなる

質 問 事 項

と、盲腸・脳出血・心臓病などの緊急手術の必要な患者が遠方の病院に転送されて助かる命も助からない場合が出てきます。

このような事態を避けるためには、この市内に、今回のコロナ騒ぎのような場合、糸魚川総合病院とは別に対応できるようにしておかなくてはならないのではないのでしょうか。

今、幽霊屋敷の旧姫川病院を活用したらなどー」

そこでお伺いします。

私、「旧姫川病院」だけに絞り込んでいるわけではありません。が、確かに寄せられたご意見の中に同旨のものが多かったのです。

市長、このような現実の中でこのようなご意見が多い。このことをどう受け止め、どう対応すべきがベストとまでは言わないまでも、ベターなのか。お考えをお聞かせいただければ。よろしくお願いたします。